

KOUSAIKAI DAYORI

弘済会だより

No.44

2024 January



ワンチーム埼玉でDXを推進

少子高齢化が進む中、本県の活力を維持し、必要なサービスを提供していくには、デジタルをベースに仕事やサービスの在り方を根本から変革する「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」が不可欠です。

埼玉県はDX実現まで全職員ワンチームとなって歩んでいけるよう、次の取組を進めています。

① 3つのステップでDXを推進

DX実現までを3つのステップに分け、段階的に取組を進めています。

第1段階「アナログからデジタルへの転換(デジタイゼーション)」では、ペーパーレス化やウェブ会議の活用を推進し、コピーの量はこれまでに減少、職員はパソコン1つでも仕事ができるようになりました。

今後は第2段階「業務プロセスの改革(デジタライゼーション)」として、デジタルをベースに従来の仕事のやり方を根本から見直し、生成AIなどのツールを活用して業務効率をさらに高め、県民サービスをより便利なものへと変えていき、最終段階である「DX」の実現を目指します。



② 職員必携「3種の神器」

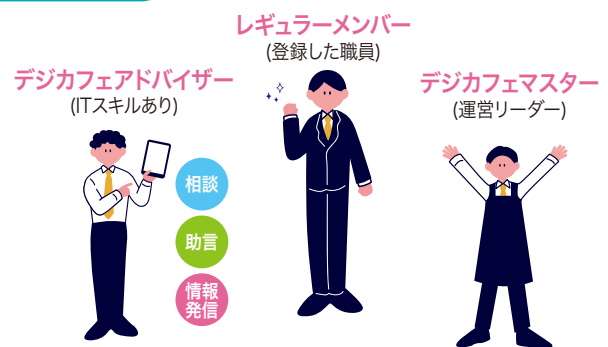
これまでのデジタル化は、IT企業にシステム開発を委託するなど、外部のリソースに頼っていました。しかし、近年はプログラミング知識がなくても誰でもアプリを構築できる「ノーコードツール」や文書作成・要約等に活用できる「生成AI」などの便利なツールが増えました。これらツールの活用スキルを伸ばすことに加え、自らデジタルを活用して業務の効率化を高めるため「ITパスポート」などの資格取得を支援することで、職員必携の「3種の神器」を持つデジタル人材を育成していきます。



③ 職員の力を結集

DXを全庁に浸透させるには、1人ひとりの職員がデジタル化について主体的に考え、提案し、行動する風土に変革する必要があります。県ではDXの新規提案を求めるため、中堅・若手職員を中心としたプロジェクトチームを設置し、令和5年度は440人以上がプロジェクトに参加しています。

また、職員がデジタルについて自発的に学んだり、情報交換できるオンラインコミュニティ「デジカフェ」を開設し、部局や職位を超えた活発な意見交換を行っています。



未来志向で新時代を切り拓く



埼玉県知事 大野 元裕

明けましておめでとうございませう。

埼玉県弘済会の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、コロナ禍での変化を前向きに捉え、コロナを克服した持続的発展を可能にする社会の実現を目指すポスト・コロナ元年と位置付けました。

本年は、経済の正常化にとどめることなく、埼玉県が直面する二つの歴史的な課題に敢然と立ち向かい、持続的な発展を確かなものとする年にしなければなりません。

二つの課題は、人口減少・超少子高齢社会の到来であり、二つ目は、激甚化・頻発化する自然災害、パンデミックなどの危機への対応です。

二つの歴史的課題に立ち向かうためには、10年後、20年後を見据えた未来志向の施策展開が必要です。

まず、二つ目の人口減少・超少子高齢社会への対応として、人口減少下であっても生産性を向上させることで持続的成長を成し遂げることが不可欠です。DXを更に推進することで社会全体の生産性を高め、新たな価値やサービスを創出してまいります。生成AIなどの活用により、業務プロセスを変革させ不
断の行財政改革を推進してまいります。

また、職住が近接した環境の整備とともに、地域での高齢者や子供たちの見守りを可能にする「埼玉版スーパー！シティプロジェクト」を強力に推進しま

す。既に29市町まで拡大したところですが、できるだけ早期に全市町村に御参加いただくことを目指します。

二つ目の様々な危機への対応として、関係機関の連携に主眼を置き様々なシナリオ作成や図上訓練を繰り返す「埼玉版FEMA」をより一層充実させ、県民の安心安全を確かなものとしてまいります。

他方で、エネルギー・物価高騰といった喫緊の課題にも機動的に対応し、引き続き支援の手を緩めることなく取り組めます。企業の体力を強化すると同時に、経済と環境の両立による持続的な発展のため、サーキュラーエコノミーとネイチャーポジティブの推進を更に強化してまいります。

さらには、子供への医療費助成など、社会の宝である子供への支援強化とともに、女性や高齢者など、あらゆる人が活躍できる社会づくりを進めてまいります。

さて、映画「翔んで埼玉」の続編の公開に続き、今年も、洪沢栄一翁がデザインされた新二万円札が発行される予定であるなど、本県に注目が集まる今こそ、県内外に埼玉の魅力を発信するチャンスではないかと思っています。

今年の干支「辰(たつ)」のように、埼玉県にとつて大きな成長の年となるよう、皆様と共に「ワンチーム埼玉」で県政に取り組んでまいります。

新年のごあいさつ



会長 橋本 光男

新年明けましておめでとうございます。

埼玉県弘済会会員の皆様におかれましては、ご家族ともどもつつがなく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、数年にわたり人々の暮らしを萎縮させてきた新型コロナウイルスも感染症法上の位置づけが第5類に引き下げられ、ようやく通常の経済活動が復活してきました。しかし、世界情勢では昨年来のウクライナへの軍事侵攻が継続している中、中東でも軍事衝突が発生、混迷が深まり不透明感が増しています。また、昨年夏の平均気温は18.98年の気象庁の統計開始以来で最も高く、各地で猛暑日が過去最多を更新するなど、気候変動の深刻さが懸念される状況となっております。

このような中で、会員の皆様は道路や河川、公園の美化活動、休耕地を活用したシニテ栽培及び収益金の共同募金会への寄附、赤い羽根共同募金への協力など、地域に根ざした地域支援活動を実施しました。

また、親睦事業もゴルフや鑑賞会、講習会など、ほぼ予定した活動が行われ、5年ぶりとなる会員間交流地域巡り事業も予定されています。

公益事業である宅建試験では19,749人の受験申込者があり、14会場で試験を実施しました。このうち4会場を埼玉県宅地建物取引業協会に、1会場を初めて全日本不動産協会埼玉県本部に、1会場を試験受託企業に再委託し、無事に終了しました。

弘済会活動に御協力いただきました皆様には改めて御礼を申し上げます。

私ども埼玉県弘済会は、昭和63年度から埼玉県知

事の推薦を受けて、宅建試験の指定試験機関である(一財)不動産適正取引推進機構から協力機関として試験業務を受託して参りました。以来、令和5年度まで36年間で38回、延べ67万人が受験した宅建試験の適正実施に協力してきました。

しかし、平成14年をピークに会員数が年々減少し、令和2年度には県当局から会員数の減少傾向により安定的に宅建試験実施を継続できるか課題があると指摘されました。新規会員獲得に努めていますが、試験に従事できる年齢層の会員の減少により、試験要員に占める会員の割合はかつての7、8割から令和4年度は2割を下回る状況になりました。このような弘済会の現状については県に報告しております。

これらの状況や経緯については、これまで理事会や支部長会議で議論し、また、各支部においても意見交換をお願いしてきたところです。今後も、協力機関として県当局の判断や指導を頂きながら、宅建試験への協力の方向性や関係団体との協議、また弘済会の事業の在り方などの議論を進めて参ります。

さて、今年には洪沢栄一翁を肖像とする新1万円札が発行されます。翁は「四十、五十は洩垂れ小僧六十、七十は働き盛り 九十になつて迎えが来たら百まで待てと追い返せ」と言っています。人生100年時代と云われる現代社会を見通していたようです。皆さんも「もう年だから」などと言つてはいられません。日々是新、まだまだこれからです。何か新しい挑戦を始めてみてはいかがでしょうか。

年頭にあたり、会員の皆様、ご家族の皆様の御健勝を御祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

弘済会ニュース

会員数 1,122人(12月25日現在)

News

1

令和5年度通常総会が 開催されました

開催されました

令和5年5月29日(月)、通常総会が開催されました。御公務で多忙な中、大野元裕埼玉県知事にも御臨席頂きました。コロナ禍で御案内を自粛していたため、知事の御臨席は4年ぶりのこととなります。新型コロナウイルス感染症の感染法の種類が5類に引き下げられましたが、感染者の発生も続いていることから、間隔を開けるなどの対策をとりながらの開催となりました。そのため、総会後の懇談会の開催は見送られました。総会では令和4年度の事業報告及び収支決算議案が審議され、原案のとおり決定されました。



News

2

令和5年度宅地建物取引士 資格試験が無事終了 ～雨天の中での試験開始～



令和5年度宅地建物取引士資格試験は弘済会が実施するようになり、今年目を迎えました。今年

度は感染症上の位置づけが5類に引き下げられた新型コロナウイルス感染症ばかりでなくインフルエンザの感染者増加により学級閉鎖が相次ぐ状況となり、影響が心配されました。しかし、体調不良による途中退出者が3名発生しましたが、混乱もなく試験は無事に終了しました。本県の受験申込者数19,749人で前年度より299人増加(1.5%増)しました。全国の申込者数は289,096人で、前年度より5,240人増加(1.8%増)しました。

10月15日の試験には、あいにくの雨天の中、県内14の試験会場で15,919人が試験に臨みました。14の試験会場のうち、

4会場を埼玉県宅地建物取引業協会、1会場を全日本不動産協会埼玉県本部、1会場を全国試験運営センターに再委託しました。受験率は80.6%(全国平均80.7%)でした。合格者は11月21日に不動産適正取引推進機構のホームページで発表され、2,696人が合格し、合格率は16.9%(全国平均17.2%)でした。来年度の試験は、令和6年10月20日(日)に実施される予定です。

News

3

「第22回埼玉県弘済会会員 文化創作展」が3年ぶりに 開催されました

第22回埼玉県弘済会会員文化創作展が、令和5年2月14日(火)から2月20日(月)に、埼玉会館第1展示室で開催されました。

書、絵画、写真や手工芸など幅広い分野から42人の力作98点の作品が展示されました。鑑賞に訪れた方は延べ429人で、皆さん

ゆつくりと鑑賞されていきました。

なお、第23回埼玉県弘済会会員文
化創作展は、令和6年1月10日(水)
から16日(火)まで、埼玉会館第1展
示室(地下2階)で開催されます。



News 4

結婚相談の状況

県職員互助会、弘済会、埼玉りそな
銀行、武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫で
構成する埼玉県結婚相談所(浅賀康夫
所長・弘済会副会長)は、平成29年2
月18日に開設され6年10か月が経過し
ました。引き続き、弘済会会員が熱心に
婚活支援におせっかいをやっています。

登録者数は昨年12月23日現在で199

人となっており、内訳は男性77人、女性
122人です。所属団体別では、互助会88
人、弘済会52人、埼玉りそな銀行28人、
武蔵野銀行15人、埼玉縣信用金庫16人
です。弘済会には相談員紹介34人が含
まれています。

これまでのお見合い件数は475組とな
り、このうち交際中は11組となっていま
す。

成婚に至ったのは9組。男性は、県職
員7名、弘済会関係者2名で、20代1
人、30代5人、40代2人、50代1人
です。女性は、県職員1人、互助会関係者
1人、弘済会関係者5人、埼玉りそな
銀行1人、武蔵野銀行1人で、20代1
人、30代6人、40代2人となっています。

毎週土曜日の午後、結婚相談を行って
いますので、お気軽にご相談下さい。

県職員等結婚相談所
電話 048-830-7450

News 5

「赤い羽根共同募金」

活動に協力

社会福祉法人埼玉県共同募金会
からの要請を受け、例年10月1日に
行われる街頭募金ですが、今年度は
1日が日曜日のため10月2日(月)、3
日(火)にも行われました。

県内の11か所の駅頭で66人の会員
が募金活動に奉仕しました。御協力
いただいた会員の皆さんには深く感
謝申し上げます。

News 6

年金等の相談事業を実施

弘済会では、社会保険労務士の一般
相談員が会員やご家族からの年金や
相続などの相談(電話又は面談)に応
じています。令和4年度には、34件の
相談がありました。一般相談員は、北
足立支部の浅見誠二氏(75)です。お
気軽にご相談ください。

定例の相談日は、毎月第1・第3の
水曜日(午前10時～正午、午後1時～
4時)となっています。相談を希望さ
れる方は、随時事務局にご連絡くださ
い。日程の調整を行います。

事務局連絡：048-822-7926

News 7

第13回地域巡り事業が

開催されます

北本自然観察公園の散策路を楽し
む「森林セラピーツアー」による森林浴
が、令和6年3月22日(金)に開催され
ます。北本自然観察公園の散策路は、
県内で初めて森林が持つ癒やし効果が
科学的に認められた森林セラピー基地
として認定されています。ガイドの方の
解説を聞きながら、約15kmの散策路で
森林の持つセラピー効果を満喫し、おい
しい昼食を召し上がって頂きます。皆
さんの参加をお待ちしています。

なお、女性交流事業は新型コロナウイルス
イルス感染症等の懸念がまだあること
から中止になりました。

生成AIを使ってみよう

よく聞くAIという言葉、これはArtificial Intelligenceの略で人工知能のことを指します。最近では、文章や画像を生成する生成AIが話題になっています。そのような中、埼玉県や東京都でもChatGPT（チャットGPT）などの生成AIを業務に導入する報道されています。

しかし、皆さんの中には関心があるけれど不安なので利用をためらっている方も多くいると思います。

そこで、県企画財政部行政・デジタル改革課に、生成AIについて、県政での活用について伺ったのか、また、利用する場合の方法や注意点などを伺いました。

昨年からは、デジタルの専門知識のない人でもチャット形式で気軽に利用できる生成AI「ChatGPT」が、世界中の注目を集めています。

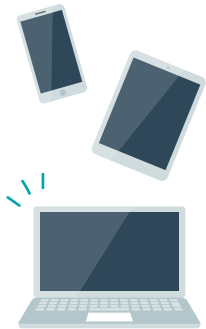
民間企業や行政における活用事例が連日報道され、書店には解説本があふれるなど、インターネット誕生以来の衝撃ともいわれる一大ブームとなりましたが、皆さんは生成AIを使ってみましたか？



生成AIとは

生成AIは、人間の指示に応じて文章や画像などを作ることができるAIで、オープンAI社が開発した「チャットGPT」、グーグル社が開発した「Bard（バード）」などが有名です。

膨大な量の文章をAIが学習し、ある単語の次に来る確率の高い単語を選択することにより文章を作成していきます。つまり、生成AIは指示の内容（意味）を理解して文章を作成しているわけではないので、データがないときは類推で作文してしまうこともあります。生成AIの作った文章に、正確でない情報が含まれることがあるのはこのためです。



生成AIにできること

企画立案等

情報収集
課題抽出
調査
提案の作成

アイデア出し
ブレインストーミング

ロールプレイ
高齢者視点で「ほしいサービス」を提案

文章作成等

文章要約
会議録の要約

原案生成
文章やメールのたたき台作成

プログラムコード生成
エクセルマクロの自動作成

翻訳

文書校正

数値集計
数値の処理は苦手

その他

キャッチコピー生成
著作権等に注意

画像生成
著作権等に注意

タスク作成
会議開催準備の手順

検索
正確でない情報も混じるので、検索エンジン使うべき

チャットGPTの強みと弱み

入力した言葉に対し、「最も確率の高い言葉を続ける」仕組みを持つ生成AIの得意分野は、「対話」です。対話型AIとも言われるチャットGPTが得意なのは、ブレインストーミングやアイデア出しで、あなたからの様々な相談に人間と対話しているような自然な会話で対応してくれます。

「10歳の男の子になったつもりで文章を書いて」「この質問に英語で回答して」といったリクエストにも、器用に対応してくれます。こうした強みを生かし、文章(たたき台)の作成や要約、校正、翻訳、企画立案など様々な業務に活用することができます。

一方、チャットGPTには、苦手な分野もあります。指示内容を理解せず回答するので不正確な情報が混じることもあるため、「検索」には向きません。また、数値の処理も苦手です。生成AIの特性を理解し、得意分野にマッチした使い方をすることが重要です。

埼玉県では・・・

令和5年7月から埼玉県でも生成AIの活用を開始しました。生成AIは、的確に利用すれば、業務の効率化や県民サービス向上につながる有用なツールとなります。一方、情報の入力や生成物の利用の仕方を誤ると、権利侵害等につながるおそれもあります。

このため、県では「生成AIの利用に係るガイドライン」を策定し、業務で生成AIを利用する場合は、「ガイドラインを遵守すること」「必要な知識を習得するためのオンライン講習を受講し、効果測定テストに合格すること」「所属長の了解を得ること」の3つをクリアすることを条件としました。

初めは、情報収集やアイデア出しなど、庁内で完結する事務で利用してトレーニングを積み、次の段階で「できるだけ簡潔に」とか「子供向けにわかりやすく」などの条件を付けて広報文案を作成するなど県民向けの業務に活用範囲を広げる予定です。

埼玉県庁で利用可能な生成AI



①行政用 Chat GPT マサルくん

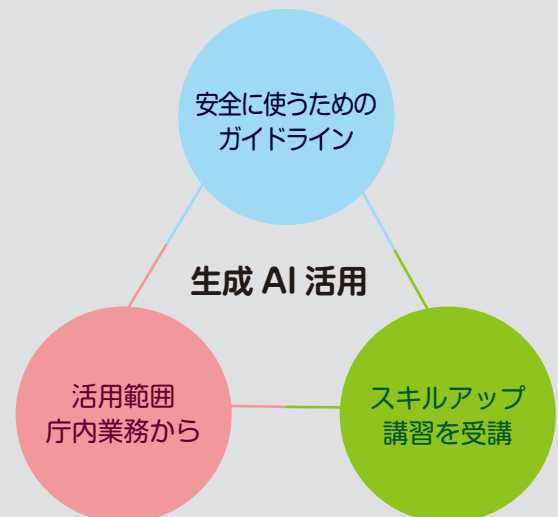
行政に特化した ChatGPT で、省庁の白書を追加学習しているため、行政情報に強い



②Bing

検索エンジンと組み合わせることで、インターネット上の最新情報も踏まえて回答してくれる

生成AI活用方針



実践!

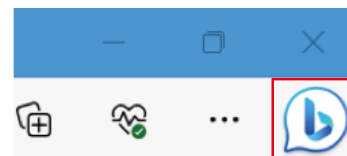
生成AIを使ってみよう

皆さんが普段使っているパソコンやスマートフォンでも簡単に生成AIを利用できます。例えば、マイクロソフトの対話型AI「Bing」は誰でも無料で使うことができます。



パソコンをお使いの方は「マイクロソフトEdge」の右上のアイコン (Copilotアイコン)をクリックすればすぐに利用ができます。

スマートフォンで利用する場合は、グーグルなどの検索窓に「Bingチャット」と入力し、検索結果からマイクロソフト社が提供する専用アプリ (Bing) をインストールすると利用できます。

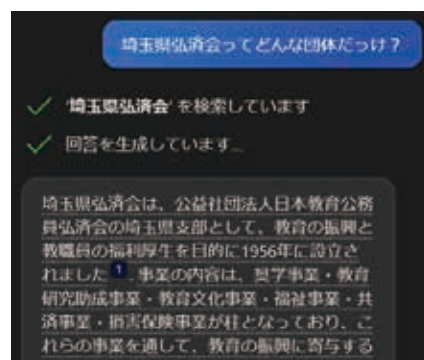


「Copilot アイコン」

例えば、冷蔵庫に残った食材と好みを入力して「レシピ」を聞いたり、行きたい観光地と興味のあること (例えばパワースポットやダムなど) を入力して観光ルートを聞いたり、ちょっとマニアックですがExcelで自動操作したい内容 (例えば「数字の入力があったら自動集計して」など) を入力すればExcel上で動作する専用のプログラム (マクロ) を生成してくれます。

試みに「埼玉県弘済会ってどんな団体だっけ?」と入力してみました。

生成AIは常に学習しているため、必ず同じ内容になるとは限りませんが、今回は『埼玉県弘済会は、公益社団法人日本教育公務員弘済会の埼玉県支部として、教育の振興と教職員の福利厚生を目的に1956年に設立されました (以下略)』との返答がありました。



▲Microsoft「Bingチャット」の画面

生成AIに自分が意図する返答をもらうには、質問の仕方にそれなりの「こつ」が必要となります。そのため、生成AIを使いこなすには「習うより慣れる」の精神が重要です。

とにかく興味があることの質問を繰り返し、質問の仕方の「こつ」を掴んでみてください。



くれぐれも返答内容には注意を

前述しましたが、生成AIは「指示の内容 (意味) を理解して文章を作成しているわけではないため、データがないときは類推で作文してしまう」場合があります。

上で試した「埼玉県弘済会」の例でも、名称は似ていますが別の団体を類推で回答するように、返答に誤った内容が含まれることが御確認いただけると思います。ちなみに、同じ質問をグーグルで検

索すると「公益社団法人埼玉県弘済会」がトップで表示されます。

返答した文章の内容については真偽や的確性、著作権等の確認が必要となりますので、結果を利用する場合には十分御注意ください。

まずは、気楽な会話から使ってみてはいかがでしょうか?

■支部だより

うちの支部自慢

支部
だより

北足立支部

地域支援活動の実施

第十二回の国心援助

鴨川左岸河川美化活動の実施

さくら班 権田 富久

十月二十日(金)午



ル、空き缶、家庭ごみなどを収集する河川美化活動を実施しました。

前十時から十二時まで、鴨川左岸、桜区役所西側(中土手橋、諏訪前橋間)約九百メートルの間の、散乱しているペットボ

当日は、絶好の秋空の下、好天に恵まれ、さいたま県土整備事務所の協力を得て、今回も「さくら班会員」と支部役員を含め、合計十二人の方々に参加していただきました。

開始あいさつの後、当日のスケジュール等を説明し、ビニール袋やごみバサミを手にし、定刻に作業がスタートしました。当地は、桜区役所や体育館に接し、また、鴨川沿いの散策コースとしても利用者が多い地域です。

今回も、散乱している廃棄物を収集し、地域の環境美化に大いに貢献できたものと思っています。また、例年のことですが、河川に飛来してくる多くの小鳥たちを眺めながら、久しぶりの会員との談笑に花が咲き、楽しいひと時を過ごすことができました。

ロードサポート始めて十五年

無理せず続けます

吹上班 柴田 雅幸

十月七日(土)に行った道路美化活動(JR吹上駅から伸びる一般県道吹上停車場線のうち中山道から十七号バイパスまでの間、約六百五十メートルの区間)は、今年も晴天に恵まれました。

今回は、吹上班の班員七人に加えて桶川から榎本恵樹さんに参加していただきました。榎本さんはロードサポート事業を

吹上班で始めたときの、北本県土整備事務所の所長さんで、班の先輩に聞くと大変お世話になったとのこと。

奇しくも十五年目の節目に参加いただけたのは、私たち吹上班にとっても塵も積もれば山となるの道程を感じるものでした。

美化活動は毎年

二月を除く偶数月の第一土曜日に行い、実施回数は七十回を数えます。活動は約1時間のボランティアです。これから無理をせず息長く続けていければと思います。



公園管理作業支援活動の実施

北本子桜会(北本班)

高岡 輝夫

11月15日埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園で、今年度2回目の地域奉仕活動を行いました。

参加者数は、北本子桜会のメンバーが5人、北足立支部から4人、他に体験入会の方の応援参加を受けて総勢10人、盛会でした。

9時30分、手ぬぐいのハチマキ、背にSAITAMA KOUSAIKAI

STAFFの文字が入った紺色のジャンパー姿、ゴム長等々働く姿の10人が会議室に集合。自然学習センター指導員から、作業に先立って2019年撮影の子桜会のメンバーの公園管理作業等の写真を映写していただきながら、作業内容や危険防止等の説明を受けました。

今回の作業は、自然学習センターの建物の①西・北側のビオトープ見本園(いろいろの生物の「すみか」)の園路の除草、②南側のグリーンカーテン(窓辺にネットを張り、這わせたつる草の撤去)です。

前回の奉仕活動での草刈は、在来植物が日陰にならないように、生い茂る帰化植物を根本から引き抜いたが、今回の①見本園の草刈は、茂みに棲んでいるカエルや昆虫などのために、園路に茂っている草の地上部分だけを鎌で刈り、「来春再び発芽するよう根を残す」とのことでした。

また、作業に際しては、「鎌も使用するし、園内にはスズメバチの巣があったり、マムシもいるので、怪我や事故に気を付けて作業にあたってください。」との注意がありました。

暑くもなく、寒くもない程よい天候に恵まれた公園管理作業支援日和のなかで、指導員さんに「雑草」や昆虫の名前や特徴を教えてもらいながら、お昼前に無事予定の作業を済ませることが出来まし

た。お昼までの短い時間でしたが指導員さんにも初冬の自然観察公園を案内していただき、冬の渡り鳥のマガモ、植物では清楚なムラサキシキブやケヤキの“実”等、日常触れることが少ない身近な自然にも触れてきました。

今回も、管理作業奉仕というより、「自然と楽しく過ごす催し」に参加したような満足感に満ちた体験でした。

弘済会会

員のみなさま、次回の北本子校会の自然観察公園管理作業奉仕に一緒にご参加ください。お待ちしております。



今日も調子いいぞナイスショット

吹上柴田 雅幸

最近、パークゴルフは人気上昇中だとか。今回も十月四日(土)に、鴻巣市宮吹上パークゴルフ場で、北足立支部事業として、第九回パークゴルフ大会を開催しました。秋晴れのもと、河川敷を吹き渡る風は気持ち良く、存分にプレーを楽しみました。参加者は九人。

和気あいあいに数人ずつのグループでコースを進みますが、その日の調子とそれぞれの技量でスコアは歴然と差がついてまいります。仕方がありません。旧知の仲間には一緒に集えることが何よりと感じられる時間が過ぎます。



令和五年度通常総会の開催

五月八日(月)午前十時から、さいたま共済会館において、支部会員四十五人が出席し、総会が盛大に開催されました。総会に引き続き、「講演会・埼玉の魅力を再発見」及び懇親会が開催されました。

班再編及び支部事業活性化策検討委員会を設置

支部事業の更なる発展を願って、班活動の在り方や事業活性化の方策を検討します。令和六年二月十三日(火)開催の班活動座談会において、「当面する班活動の問題点・課題等」について協議するほか、新企画として二月九日(金)「川越史跡巡り」を開催します。

久しぶりに

支部施設見学会を実施

(11月)まで発行し、次号第237号は、令和6年2月に発行します。

人間支部

古典芸能鑑賞「落語を楽しむ会」

令和五年六月十三日(火)、恒例の古典芸能鑑賞「落語を楽しむ会」を国立演芸場にて、参加者十八名(五夫婦含む)のもとに開催いたしました。なお、例年十二月に開催していましたが、会場の国立演芸場が秋以降は閉場になることから、六月開催となりました。

番組及び出演者は、順に上方落語の笑福亭希光、発泡スチロール芸のできたくん、落語の桂小南、落語の三遊亭笑遊コントのザニューズペーパー、上方落語の笑福亭和光、太神楽曲芸の丸一小助・小時、トリーは上方落語の笑福亭鶴光で、さすが名人芸だと圧倒されました。今年もバラエティーに富んだ多彩な芸を見せてもらい、楽しませていただきました。

「国立演芸場」は、文化振興のために大

十月二十四日(金)に国立科学博物館

「関東大震災百年企画展・震災からのあゆみ」を見学しました。感染を避けるため現地集合とし、24名が参加しました。科博では、六十五歳以上は入場無料でした。

赤い羽根共同募金奉仕活動に参加

十月三日(火)午前八時から、昨年度同様浦和駅東口駅前において開催され、当支部から五人の皆さんが参加しました。



顧問・相談役・監事会議の開催

令和6年3月8日(金)午前10時から「当面する支部事業の問題点・課題等」について協議します。

会報「かわら版」の発行

令和5年は、2月の第233号から第236号

■支部だより

衆芸能の継承や振興発展を目指し、昭和五十四年に国立劇場の敷地内に開場され、寄席形式の公演が行われてきました。施設の機能強化のため国立劇場、伝統芸能情報館とあわせて建替えにより再整備されることになり、令和五年十月末をもって閉場になりました。なお、令和六年1月以降は、「紀尾井小ホール」ほかの施設を借用して、国立演芸場主催の演芸公演を実施していかれるとのこと。

演芸場の舞台正面には、「喜色是人生」の額が掲げられていました。誰が書かれたものか調べたところ、昭和天皇の侍従長であった入江相政氏の揮毫になるものだそうです。意味は、「生きる喜びが満ち溢れている人生を送らなければならない。人生のどんな時にも、希望を失うことなく力強く生きる力をつけなくてはならない。」ということだそうです。

また、緞帳は、葛飾北斎富嶽三十六景の内「凱風快晴」、通称「赤富士」が織り込まれていました。

美しい森を創る会の活動

梅雨の晴れ間の6月29日、令和5年度第1回目として坂戸市城山の下草刈りを行いました。参加者は、坂戸市環境政策課2名、人間支部会員5名、ボランティア団体1名、計8名。

城山荘前にて、作業の概要説明と準備体操を行い、手刈り鎌、刈払機を持ち、現地へ移動。現地は、坂戸市との打合せにより決めたところで、城山荘から森に入り、北へ向かい、五叉路沿いの北側部分。10時過ぎからはじめ、1メートルほど伸びた笹や雑草を刈り、途中の水分補給等の休憩をいれ、12時をもって終了となりました。

なお、作業にあたり、川越農林振興センター林業部の職員の方々に、現地の下見、作業当日における注意事項などのご指導をいただき、無事終了でき、感謝しております。

今年度もこの後11月と2月の2回実施を予定しています。



街頭募金活動について

10月1日(日)に川越駅と飯能駅において、赤い羽根募金活動を行いました。

川越駅では、西口において、9時30分から10時30分まで会員4名の参加によ

り実施しました。今年度は曜日で家族連れのお子様からの募金が多く見受けられました。小さなお子さんには風船とドラえもんバッチを渡して普及啓発を図りました。



飯能駅では、北口と南口の2か所に分かれて活動し10時から11時過ぎまで会員5名と埼玉県共同募金会飯能市支会2名の方と共に実施しました。

皆様からは多くの募金をいただきまして大変感謝申し上げます。

ふるさと再発見事業 奥武蔵の古刹「竹寺」を訪ねて

令和五年十一月二十八日(火)に支部の恒例行事である「ふるさと再発見事業」を開催いたしました。今年度はマイクバスを利用して飯能市の山の上にあります『竹寺』を訪ねて参拝し、紅葉を愛でながら散策をして、食事をする

というものであります。参加者は18名で、山の上でしたが、この時期としては暖かく、快晴でハイキング日和でした。赤や黄の紅葉の山内を散策し、その後、竹寺名物の精進料理を、任職からの説明の後、外の景色を眺めながら堪能し、楽しい時間を過ごしました。

『竹寺』は、千年以上の歴史をもつ東日本唯一の神仏習合のお寺で、本尊は「牛頭天王(ごずてんのう)」、本地仏に「薬師如来」を祀っています。境内の観音堂には聖観世音が祀られており、武蔵野観音の三十三番結願寺ともなっています。

また、災厄除けとしての「蘇民将来(そみんしょうらい)」の護符や御朱印帳は任職の手書きで好評とのこと。



宅地建物取引士資格試験などの実施について

宅建試験については、2会場で開催しましたが、今年はこのうち1会場について、比企支部と一緒に実施し滞りなく

終了しました。

この他、ゴルフ教室、そば打ち教室、ニューイヤークンサートでの音楽鑑賞、テーマを毎年決めるのセミナー開催など、で会員相互の交流を行っています。

比企支部

セミナー事業(親睦事業)



令和5年1月19日、セミナー及び情報交換会を吉見町において「鎌倉殿を支えた比企一族」をテーマに開催しました。参加者は14名でした。

講師には「比企一族歴史研究会」会長の西村裕(ゆたか)先生をお招きしました。「比企」の名称を全国的に知らしめたNHK大河ドラマ「鎌倉殿の

13人」の最終回放映終了の熱が冷めやらぬこの時期にこの分野の第一人者にお話を伺いました。

平治の乱(1159年)で平清盛に敗れ、伊豆に流された源頼朝を物心両面で世話をしたのが比企の尼(比企能員の母の姉)と云われています。また、北条や畠山らとともに平家討伐の旗を上げた頼朝を支えたのが比企一族でした。さらに頼朝の子頼家の妻が比企能員の娘である若狭の局であり、北条政子とも親しかったこともあり鎌倉幕府の成立その後歴史に大きく関与しました。しかし悲劇がおきました。大河ドラマでも描かれたとおり頼朝没後の幕府は13人の合議制となり、御家人同士の勢力争いの中で比企能員は北条時政に討たれてしまいます。

西村講師はこの比企の乱と呼ばれ比企氏が謀反を企てたので北条がそれを収めたとされる歴史を比企の側から吾妻鑑以外の文献から反論しました。さらに東松山市の宗悟寺、正法寺、川島町の金剛寺、滑川町の三門館跡など比企氏ゆかりの名所旧跡を詳しく紹介していただきました。

道路清掃活動(地域支援事業)

第1回を6月29日(参加者14名)、2日目を11月9日(参加者10名)、東武東上線高坂駅西口から県立こども動物自然公園までの2km道路(県道含む)の清掃活動を実施しました。この事業は比企支部全会員に呼びかけ、令和元年から春と秋の年2回継続的に行っています。

東松山県土整備事務所の協力をいただきトンダやゴミ袋をお借りして2組に分かれて歩道のゴミ・空き缶を拾い集めます。6月は沿道の植え込みに雑草



が多く茂り、また11月は落ち葉が堆積しています。すべて片づけるのは大変ですが、たばこの吸い殻や菓子の空き袋、ペットボトルなど参加会員が熱心に拾い集めました

道路清掃活動を通じ、地元の環境を整備し、県こども動物自然公園を訪れる人々を歓迎し地域に少しでも貢献できればと思っています。

赤い羽根共同募金活動(地域支援事業)

10月1日、東武東上線東松山駅頭にて会員9名が参加して赤い羽根共同募金活動を行いました。朝9時から2時間の活動でした。東松山市社会福祉協議会と連携し、のぼり旗、募金箱等をお借りして、駅を利用する市民に声掛けを行い募金に協力をお願いしました。

今年、日曜日の朝、それも雨が降り、市民体育祭等行事が中止になるところが多く、人出はまばらでした。それでも、残暑厳しかった9月から10月に日付けが変わり急に秋めいた中で季節感ある募金の声掛けに、快く応じてくださった家族連れの方々からは秋の行事が重なるこの日曜日に大

■支部だより



春先の暑さと水不足でイマイチ

しょうとい
う計画でし
たが、やはり
適期に植え
付けるのが
良いようで、
収穫量は落

秩父支部では、今年も会員所有の農地の二画を借りてニンニク栽培を実施しました。昨年は、やや早めに植えて他が出回らないうちに、先行販売しようとい

地域支援事業

秩父支部

変ですねとねぎ
らしい言葉をい
ただきました。
年の瀬を感じさ
せるこの行事も
時代とともに変
化していると感
じました。



ちてしまいました。

また、エゴマにかけていた手間をほかの作物に回し、会員相互の親睦を図る目的で、ジャガイモや枝豆などを植えました。こちらも収穫量はイマイチでした。やはり片手間ではうまくいきません。

結局、原点に帰って、適期に植え付け、草取りなどを真面目に地道にやろうということになりました。

まさに、「ローマは一日にしてならず」でした。

さあ、来年の収穫に期待しましょう！ なお、ニンニクの売上金は、例年通り日本赤十字社に寄付することとしています。

生涯学習事業

令和5年6月25日、支部総会に先立ち秩父市歴史文化伝承館にて埼玉民俗の会顧問の朽原嗣雄先生をお迎えし「秩父の風土と伝統文化」と題して講演をしていただきました。

秩父は江戸の文化の吹きだまりと称されるが、江戸をはじめ上州・信州・甲州の国々から流入した文物が、長い年月を経て、山ひだの村々のなか

に沈殿したごとく、極めて古風で多様な民俗文化圏を形成している。したがって秩父の祭りや年中行事、民俗芸能のなかには秩父の風土に根ざし、

かたくなと思えるほど秩父人の心根を今に伝える特色のあるものが多いとのことでした。

赤い羽根共同募金活動

令和5年10月2日、10名が参加し西武秩父駅頭にて赤い羽根共同募金活動を行いました。通勤・通学の皆様から多くの賛同を頂きました。



西武秩父駅頭にて



大滝トンネル工事現場見学会

地域の発展する様子を体感しようとして秋晴れの令和5年10月24日、埼玉県が整備を進めている国道140号の大滝トンネル工事現場見学会を実施しました。



建設機械の説明を受ける

まず、現場事務所にて埼玉県西関東連絡道建設事務所の方から西関東連絡道の役割や大滝トンネルの概要、事業効果などの説明をいただきました。トンネル延長は2,053m、幅員は二車線に2.5mの歩道付きです。現道の7.2km区間は狭隘で見通しが悪く、落石や斜面の崩壊等が頻発し、危険な状態とのこと。

このトンネルの整備により走行時間の短縮や安全性の向上など多くの効果が期待できるとのことです。

その後、施工業者の大林・西武・斎藤特定建設工事共同企業体の方から施工方法や採用している新技術等について説明していただきました。

掘削はナトム工法で地山の状態により4パターンでロックボルトや鋼製支保工で地山を抑えて掘削していくとのこと。昼夜2交代(ただし土、日曜日は休み)で現在、1,842m掘り進んでいるとのこと。

最新技術では弾性波やトンネルナビを活用して前方地山の状況を把握しながら工事を進めているとのこと。

その後、乗用車に分乗してトンネルの中に入りました。トンネル内は明るく大型の作業機械が整然と並んでいました。切羽前面まで行きJⅤの方から作業の状況や機械の説明を分かりやすくしていただきました。ちょうど発破の



切羽前面にて

時間でしたので安全な場所まで戻り、耳を塞ぎ、背中を向けて発破の迫力を体感しました。「ドスン」とおなか

に響き、皆さん、まさに発展の槌音を体感したと思います。

令和9年度末を供用開始の目標として

親睦旅行

今年度の親睦旅行は魚介類をたくさん食べて漁業を応援しよう、令和5年11月20日、はとバスによる「豊洲市場と東京スカイツリー」の旅を企画しました。

西武秩父駅を朝6時2分の特急に乗って東京駅のバス乗り場に向かいました。

はとバスはレインボーブリッジを渡り豊洲市場に到着。

水産卸売場での競りは早朝からというところで、すでに終了しており、2階から誰もいない広い床を眺めるだけでした。その後、水産仲卸売場の4階にある「魚がし横丁」で活きの良い魚介類を購入できるかと期待しましたが、残念なことに、海苔や加工食品、調理器具などしかなく、やむなく佃煮などを土産にしました。

昼食は市場近くのホテルレストラン

でアサリたっぷり、の深川飯を食べ満足でした。

次に、スカイツリーの地上

350mの展望デッキに昇り、箱庭のような東京の街や遠方の山々の眺望を楽しみました。

真つ白な富士山より霞む武甲山を見つけた時の方が感動的でした。

最後に、浅草寺で常香炉の煙を各自具合の悪い所にかけて健康長寿をお祈りし旅の終わりとしました。

最後、浅草寺で常香炉の煙を各自具合の悪い所にかけて健康長寿をお祈りし旅の終わりとしました。



マグロと一緒に



武甲山が見えた!!



児玉支部

令和5年度支部通常総会及び役員会の開催

令和5年度児玉支部総会が令和5年5月18日(木)上里町内の(有)小菊で行われました。出席者は19人でした。議題は令和4年度事業報告及び収支決算、令和5年度事業計画案及び予算案並びに令和5年度宅建試験について、原案のとおり承認、可決されました。

次に令和5年7月27日(木)に支部役員会が総会と同じ会場で行われ、出席者は10人でした。議題は令和5年度宅建試験について、喜寿・米寿該当者表彰訪問、赤い羽根街頭募金、そば打ち体験教室、宅建試験反省会兼研修旅行の実施などについて審議しました。各会議ともマスクを着用しつつも、ほぼ新型コロナウイルス感染拡大以前の形で行いました。

「ホテルの里」の清掃ボランティア活動についで



平成25年に始めたボランティア活動も11年目となりました。今年の活動人数は13人でした。作業は

例年通り上里町の「みちくさの道」の

除草で5月から9月まで第2日曜日の早朝に行い、マスクの着用は任意となりました。

今年も6月から猛暑続きで作業は大変でしたが、ホテルの発生は6月から7月半ばまでと例年並みでした。このホテルの里では公民館が地元の小学生を対象に6月に親子ホテル教室を、7月にはホテルの放虫会及び観賞会を行うなど、自然学習の場としても利用されています。なお、今年の観賞会はいよいよの雨で中止になりました。

赤い羽根共同募金活動について

例年10月1日にJR本庄駅で赤い羽根街頭募金活動を行ってきましたが、今年は10月2日(月)午前7時から行いました。参加者は10人でした。



第8回そば打ち体験教室

令和5年10月24日(火)

上里町七本木公民館でそば打ち体験教室を行いました。参加者は12人でした。支部活動の活性化事業として始め、8回目となりました。麺打ちの道具や蕎麦粉などを持ちこみ、講師は会員のボランティアにお越しし、新そばを沢山頂き楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



令和4年度宅建試験

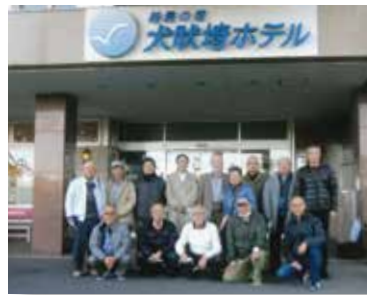
反省会兼研修旅行

令和4年12月11日(日)から12日(月)の日程で研修旅行を実施しました。新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたので千葉県犬吠埼へ行ってきました。参加者は14人でした。

灯台に登りましたが、強風で体が飛ばされそうで怖かったです。また、地球のまるく見える丘展望館からは

水平線をぐるっと一周、見ることができ地球の丸さを感じることが出来ました。

途中、鹿島神宮と香取神宮を参拝しました。我々以外の参拝者も結構いました。団体の方はまだ少なかつたように思われま



大里支部

大里支部紹介

2024年(令和6年)7月前半にお札が変わります。一万円、五千円、千円の三券種が改刷されます。この中の二万円札の肖像は、渋沢栄一が描かれています。

生涯において約500もの企業の設立などに関わった「近代日本経済の父」といわれ、実業界で活躍した渋沢栄一。裏面には、「赤レンガ駅舎」として親しまれた歴史的建造物(重要文化財)の東京駅(丸ノ内駅舎)が描かれています。



デザインの他に高精細すぎ入れ、3Dホログラムなど8つの偽造防止技術や識別マークの形状及び配置変更や額面文字の大型化などとユニバーサルデザインも取り入れられています。

2年前の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」、3年前の大河ドラマ「青天を衝け」で大いに盛り上がった大里支部、そして、今年は新二万円札の肖像画によって、一層盛り上がっています。

我が郷土の偉人を、手に取ってじっくり味わってみてください。

支部総会及び講演会

5月にコロナウイルス感染の感染症法が定める感染症2類から5類に

引き下げられ、季節性インフルエンザと同じになったこともあり、5月25日（木）熊谷市文化創造館さくらめいと（月のホール）に於いて、埼玉県泉陽会副会長浅賀康夫様、埼玉県北部地域振興センター所長清水匠様のご臨席をいただき、総会が開催されました。

総会では、前年度の決算報告、事業報告及び今年度の予算説明、事業説明等が行われ、会員の皆様のご賛同をいただきました。

総会の後は、「健康の源 お酢について」と題し、元キューピー醸造株式会社研究所長中村訓男氏を講師に迎え、講演会が行われました。

お酢は、紀元前5,000年のバビロニアの記録にもあり、お酒と同じくらい古い調味



講演する中村訓男氏



聴講する会員の皆さん

料で、日本には、応神天皇（369〜404年）の頃に中国から渡来した。

お酢の種類には、醸造酢と合成酢があり、醸造酢には、穀物酢や果実酢などがある。

お酢の造り方は、穀物や果実を原料にお酒を造り、酢酸菌により発酵させて造る。

お酢の利用方法と機能としては、調味効果、調理性、殺菌、静菌健康機能などがあり、お酢の健康機能には、ミネラル吸収アップ、血圧上昇の抑制、内臓脂肪の低下、血中総コレステロール値の低下や血糖値の抑制などがある。

全体を通じ、興味深い講演でした。会員の方々は、身近に感じる内容で、熱心に聴講されていました。

研修部会・施設見学

11月2日（木）

晩秋の北関

東を訪ねる旅と称し、わたらせ渓谷鉄道沿線（122号沿い）の草木ダム、足尾



ダム管理職員の説明

銅山及び宝徳寺を訪ねました。

7時30分 地方庁舎を出発し、草木

ダムには、9時30分に到着しました。草木ダムは、

1976年に完成した重力式コンクリートの多目的（洪水調整、灌漑用、水道用、発電用等）ダムです。

ダム管理職員の案内でダムの下部までエレベーターで100m。降り立ったところから、のけるように見上げた景色は、圧巻でした。

ここから、30分で足尾市に入り、足尾銅山観光に着。

トロッコ電車 で、出発し、坑道内で下車して徒歩で見学。

江戸、明治、大正、昭和まで、手掘りの様子から、機械化された坑内作業の移り変



草木ダムの下部100m



トロッコ電車



坑道内の工夫

わりが展示されていました。

40年にわたり掘り開いた坑道の総延長は、1,234 kmに達し、日本一の長さとなっています。明治10年、当時経営不振が続いていた足尾銅山を古河市兵衛が購入し、陸奥宗光の協力や渋沢栄一の資金援助を受けて、開発や近代化を図り、日本の鉱山王と呼ばれました。

渋沢栄一は、ここにも登場します。

明治34年、田中正造が鉱毒問題で明治天皇に直訴した事もあり、昭和48年2月28日閉山となりました。その後、輸入鉱石による精錬が続けられました。昭和63年に鉱石による銅生産の歴史は、幕を閉じました。現在、足尾市は、銅

精錬により失われた山の緑を取り戻そうと、国を挙げて植栽事業に取り組んでいます。

この後、黒保根の道の駅で休憩し、昼食は、わたらせ渓谷鉄道の



列車レストラン



■支部だより

神戶駅構内にある列車レストランで「ヤマト豚弁当」をいただきました。次は、「床もみじ」で名が知られている桐生市の禅寺の臨済宗宝徳寺。紅葉の絶景までには少し早かったが、床に映る別世界を十分味わうことができました。



宝徳寺「床もみじ」

地方庁舎には、17時に無事到着しました。参加者は、25人でした。

生涯学習部会

1. グラウンド・ゴルフ同好会

グラウンド・ゴルフ同好会は、多くの会員の参加のもと、和気あいあいの中で支部大会を含め年7回程度開催しています。

グラウンド・ゴルフは、1982年に

国の生涯スポーツ推進事業の一つとして、鳥取県泊村(現・湯梨浜町)の教育委員会が中心となって開発されたもので、今年で41年が経ちます。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる楽しいスポーツで、ゲームの特性がすべて備わっています。



妻沼運動公園自由広場

2. ゴルフ同好会

ゴルフ同好会のコンペは、大麻生ゴルフ場と上里ゴルフ場を交互に、8月、12月、1月、2月を除く、年8回開催しています。

10月20日に大麻生ゴルフ場において、「第13回大里支部ゴルフコンペ」が開催されました。

秋晴れの風もなく絶好のゴルフ日和でした。このコンペは、大里支部ゴルフ同好会が幹事役となり、参加募集を行い、会員相互の親睦を図っています。中でも、最高年齢の大島常次さん

は、91歳にもかかわらずクラブに振られることなく元気にプレーしています。まさに、鉄人です。

現在の会員数は33人、平均年齢は70半ばとなりますが、毎回20人を超える皆さんが参加され、楽しくプレーしています。



大島常次さん(91歳)



大麻生ゴルフ場

3. 野菜講習会

野菜講習会は、春(4月)と夏(8月)に開催されます。

コロナウイルス感染防止対策として、全員がマスクを着用して行いました。

(春の講習会)

4月6日(木)に農林公園研修室にて、新井守講師により、春先に播種する大根、カブ、定植するブロッコリーやキャベツ、ウエハット、レタス等の春野菜について、畑の準備、光や温度、土壌分析、pH、輪作期間などの栽培環境などを、テキストを交え講習が行われました。



春の講習会

講習会終了後は、分け葱、蔓日草が配布されました。
参加者は、22人でした。

(夏の講習会)



夏の講習会

8月3日(木)に農林振興センターにて、新井守講師により、秋口に播種する大根、カブ、定植するブロッコリーやキャベツ、ウエハット、レタス等の秋野菜用のノウハウや畑の準備、光や温度、土壌水分、pHや輪作期間などの栽培環境などについて講習が行われました。

講習会終了後は、「寄居町在来の

分け葱」、「帰山千両」の苗及びカボチャの種の配布がありました。

講習会は、コロナ対策に配慮しながら、1時間程度で終了しました。

参加者は、22人でした。

4. 楽しい歌声

10月5日

熊谷市緑化センター

「歌声

ありえる」を主宰し、

幅広い音楽活動を

している東京音楽大

学出身の福島房代

先生に講師をお願いして再開しました。



福島先生を囲んで

参加者に昭和・平成の歌謡曲・唱歌・フォークソングなどから、曲を選んで頂き、先生のキーボードの演奏に合わせて歌いました。

「若者たち」「この広い野原いっぱい」「古城」「瀬戸の花嫁」「学生時代」など多くのリクエストがありました。

よく知っている曲、うる覚えの曲もありましたが、楽しく元気に歌うことができました。先生のトークも楽しく時間を過ごすことができました。皆様お誘いの上、多くの方々に参加をお願いします。参加者は、13人でした。

ボランティア事業部会

1. 赤い羽根共同募金事業

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから従来の方式に戻りました。

熊谷駅、深谷駅ともに10月2日(月)に行いました。



熊谷駅南口にて

熊谷駅 概ね2時間程度8人で1時間毎の2回に分けて募金活動を行いました。各家庭での募金も併せて実施されていることから募金金額は多くはありませんが、1000円札を寄付され

た方もおり、昨年よりも好調でした。

深谷駅は6時30分から30分程度行

いました。7人が2か所に分かれて募金活動を行いました。

熊谷駅同様、昨年より好調のようでした。

従来の方式に戻ったため、人間味を感じるこの出来る募金活動になりました。



深谷駅前にて

2. 彩華園(特別養護老人ホーム)掛け布団カバー交換事業

この事業は2人1組で利用者の布団カバーを交換する活動で、毎月の第2土曜日の午後1時30分より1時間程度で行っています。

新型コロナウイルスの影響により中止していましたが、6月10日(土)から再開しました。

このボランティア事業は歴史と伝統のあるもので、県の「緑寿園」時代から長年続けられています。しかし、参加していただけの方が高齢化しており、皆様のご協力をお願い

■支部だより



春の植え付け

6月8日
(木)に三色
のポーチュラ
カの苗を植
え付けまし
た。
その後、毎
月2回の除

3.熊谷スポーツ文化公園における
花壇の管理事業
補助陸上競技場東側の歩道沿いに
様々な団体の花壇があります。その中
の花壇「弘済会」に行っています。
(春の植え付け)



二人一組で交換作業

します。

北埼玉支部

秋の植え付け
11月9日
(木)に三色
のパンジーの
苗を植え付
けました。
晩秋の温
かい日に恵ま
れ、家族も含めて、19名の皆様が集ま
り、1時間ほどで植え付け作業が終
了しました。
歩道沿及び周辺は、各団体の花壇
が並び、例年ネモフィラ、菜花、パン
ジーなど様々な色彩の花が咲き、公
園の見どころとなっています。一度訪れ
てはいかがでしょうか。
その後の管理は12月から毎月1
回、9時から実施する予定です。



秋の植え付け

草等の管理作業を行っています。
(秋の植え付け)

施設見学会を開催

期日 令和4年11月7日(月)

見学場所 松代城址、上田城址

令和4年度の施設見学会は、全国
旅行支援の援助のもと、最終16名の
参加の旅となりました。

例年通り、行田・羽生・加須を発着
地として、長野県東部の、松代市と上
田市を旅しました。いわゆる六文銭の
家紋で名高い真田氏の足跡を訪ねる
旅でした。

験、いい思い出となりました。

松代での最後の見学地は、松代城
址、真田氏十代が居城した城で、現
在、城門、石垣などが復元され、往時
を忍ばせる感じがしました。

そして、きのこを自家栽培している
「きのこの里」で昼食をとり、午後は
上田市にある天正11年(1583)に
真田昌幸が築いた上田城跡を見学し
ました。

最初は松代市、まず真田宝物館の
玄関前で記念撮影を行い、真田家に
伝わる古文書や武具を見学後、江戸
時代末期に九代藩主真田幸教の母の
隠居所として建てられた真田邸を見
学。建物の見事さもさることながら、
庭園の素晴らしさには目を見張るも
のがありました。明治維新後は真田
家の私邸として使われていたそうで
す。

次いで、藩の文武併習の学校とし
て安政2年(1855)に開校され
た松代藩文武学校。校内の柔術所で
は、当時を再現した火縄銃での「パー
チャル砲術」ができ、それを思わず体
上田の旧城下町を歩き、バスの停まっ

ている駐車場へ向かいました。
四百有余年の真田氏の歴史を感じた旅でした。



生涯学習健康講座を開催

期日 令和5年2月15日(水)
開催場所 ワークヒルズ羽生
令和4年度は、久しぶりに羽生総合病院の先生を講師に迎え、健康講座を開催しました。

担当していただいたのは、作業療法士の渡辺奈江先生で、演題は、我々の年代にあった「指先を使った認知症予防」でした。認知症の症状のほとんどは、大脳にある「前頭前野」の機能に関係があるそうです。認知症の方

と接する時に問題となるコミュニケーション、感情、身近の自立の障害は、全て大脳にある前頭前野がコントロールしているとのこと。

特に、手は繊細な動きが必要なため多くの神経細胞が集まっており、それが脳へとつながっており、脳には指先と口や舌の動きを感じる部分の領域が広く存在している、いわゆる指先を使った運動は広範囲にわたり脳を刺激してくれるとのことだそうです。

そして、手指の運動として、講師の合図で「後だしジャンケン」をしました。「勝つ手を出して下さい」という、通常のジャンケンはなんとかできるのですが、「負ける手を出して下さい」には頭を使いました。さらに両手で異なる手を出すことには戸惑いました。始める前は、簡単な競技と思っていたが、意外に難しいことを知りました。

質問もできるなど、楽しいひと時でした。
なお、参加者は25名でした。

令和5年度支部総会を開催

期日 令和5年5月17日(水)

開催場所 ワークヒルズ羽生
総会当日は、17名の出席会員(委任状を含めると規定の過半数を超えています)のもと、①令和4年度の事業報告及び収支決算報告、②令和5年度の事業計画及び収支予算、③その他の事項が審議され、原案通り承認されました。

議案審議終了後、会員から「宅地建物取引士資格試験を埼玉県弘済会が受託できなくなるとの話の小耳に聞いたが、現在の状況を教えて欲しい」との質問があり、現在の状況を話し、本年度は例年通り弘済会で実施され、北埼玉支部は昨年度同様、日本工業大学が担当となる予定であるので、ご協力を願いたいと回答し、総会は終了となりました。

赤い羽根共同募金街頭募金活動を実施

期日 令和5年10月2日(月)

実施場所 J R行田駅頭

本年度も昨年度と同様、行田駅頭において、行田駅のご了承のもと、赤い羽根共同募金街頭募金活動を行いました。当支部からは6人、それに行田市社会福祉協議会の職員1名を加えた7名の皆さんに

参加いただきました。

午前7時に開始し、通勤通学の方々が一段落した午前8時すぎまで行いました。本年度は、昨年度と異なり、募金箱を首からかける従来通りでの募金活動でした。

集まりました募金10,778円は、即日、埼玉県共同募金会行田市支会に納入しました。



埼葛支部

新春講演会・賀詞交歓会の集い

令和5年1月17日(火)、新春講演会を開催しました。昨年、昨年はコロナ感染の影響で中止となっていたもので、3年ぶりの開催でした。

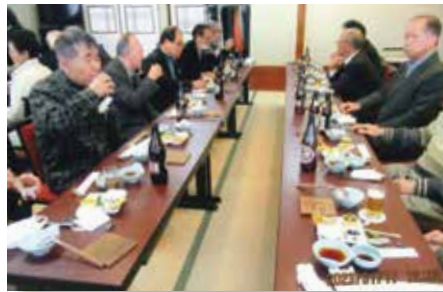
講師には、落語家の横山談らく師匠をお招きし、講演と古典落語を聞かせてもらいました。講演では談らく師匠の体験に基づく落語の世界とお弟子さんの関係など、他の人から聞けない貴重なお話を聞くことができました。



特に、五代目円楽師匠と談志師匠の弟子の育成についての考え方の違いなどは、示唆に富み興味深いものでした。後半の落語でも、いやいや酢豆腐を食べさせる若旦那の仕草や表情が面白く、参加者の笑いを誘っていました。

引き続き、第2部として、会員参加者と講師を努めていただきました。横山談らく師匠も同席され、新春賀詞交換会(懇親会)を開催しました。

久しぶりの懇親会となったことで、会員はそれぞれの近況を伝え合ったり、県職時代の思い出話などで盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。



総会の開催

令和5年5月26日(金)、岩槻駅東口コミュニティセンターで会員30名出席のもと令和5年度総会を開催しました。総会には、東部地域振興センター 佐々木 亨所長に、ご来賓としてご出席いただき、ご挨拶をいただきました。

総会では、「令和4年度事業報告及び収支決算」、「令和5年度事業計画及び収支予算」が審議され、い

れも原案どおり承認されました。また「宅建試験の協力機関としての弘濟会の状況等について」説明がありました。



赤い羽根街頭募金活動

令和2年度から4年度までコロナウイルス感染症の影響で街頭募金活動が中止を余儀なくされましたが、5年度は10月2日(月)に、3名が参加して、春日部市社会福祉協議会等と春日部駅西口前で活動を行いました。

ご協力いただきました募金は、即日、埼玉県共同募金会春日部市支会に納入しました。

宅地建物取引士資格試験

10月15日(日)実施の宅建試験では、申込者数2,556人の獨協大学会場を担当しました。会員の高齢化の為もあり、必要要員14名のうち、会員は23名でした。

また、当日は雨で最悪となり、会員にはご苦労をお掛けしましたが、無事に実施することができました。

日帰りバス旅行「長瀨の秋を楽しむ」

10月31日(火)日帰りバス旅行を13名が参加して開催しました。埼玉が誇る観光地、自然の宝庫長瀨で、今年オープンしたトリックアートを鑑賞し、県立自然の博物館では海獣パレオパラドキシアの化石と対面し、最後に長瀨ライン下りに乗船をしました。紅葉には少し早かったですが、天候に恵まれ、秋の一日を楽しむことができました。

